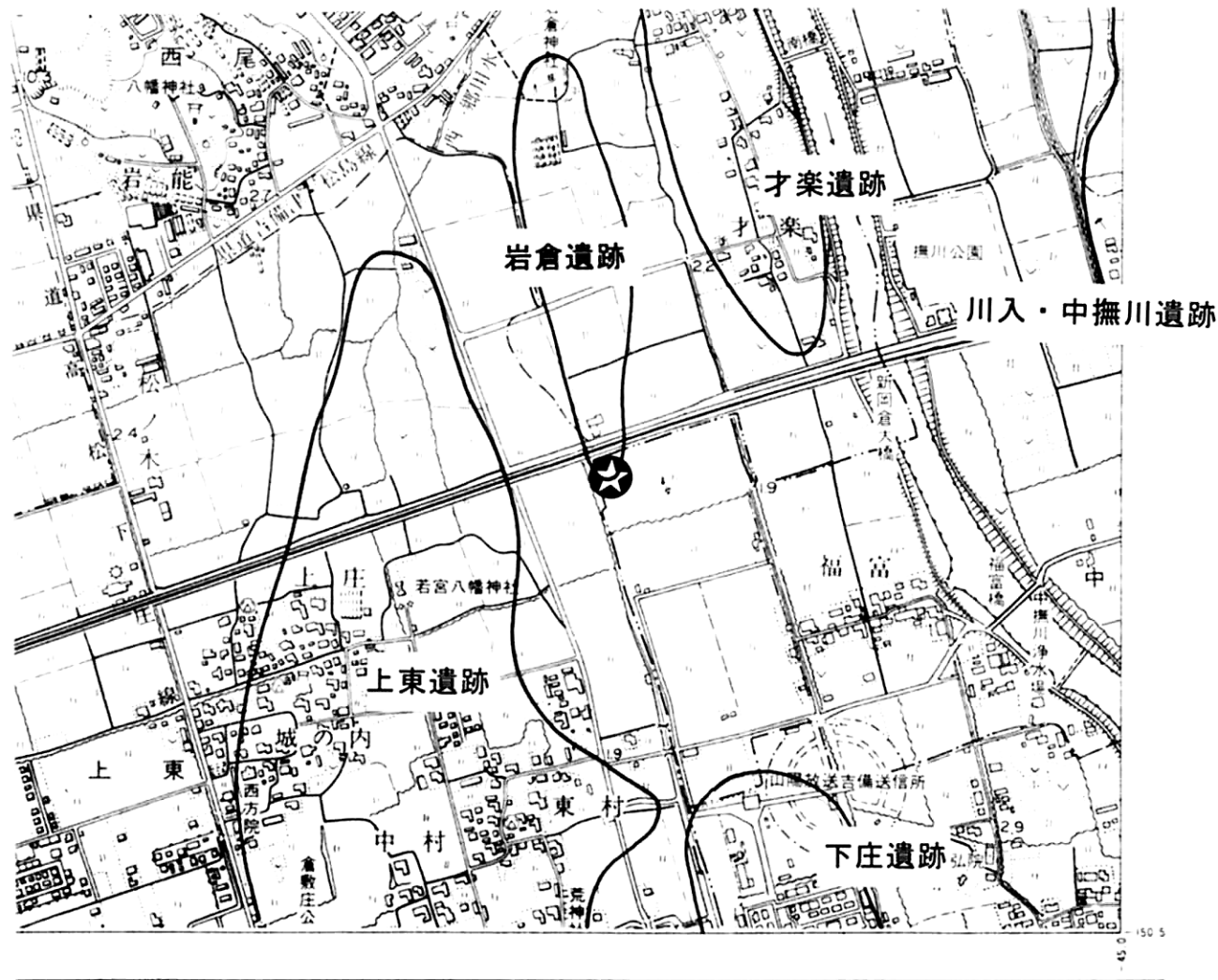


平成22年 3月 6日

岩倉遺跡発掘調査現地説明会資料

岡山市教育委員会文化財課
岡山市埋蔵文化財センター

1 : 10,000

図 1 位置図

岩倉遺跡ってどんな遺跡？

岩倉遺跡は、岡山市と倉敷市に分布する集落遺跡です。図1に示したように、南北600m、東西150mの範囲と推測されます。以前に、弥生時代前期の遺物が出土していることから、足守川流域では数少ない弥生時代前期の集落遺跡であると考えられていますが、新幹線、都市計画道路、ガソリンスタンドの建設に伴う発掘調査では弥生時代後期の井戸や溝がみついています。

今回は、都市計画道路建設に伴い、平成22年1月から1,100㎡の面積の発掘調査を行っています。これまでの調査地に隣接することから、弥生時代後期を主体とする集落遺跡が見つかる予想されました。

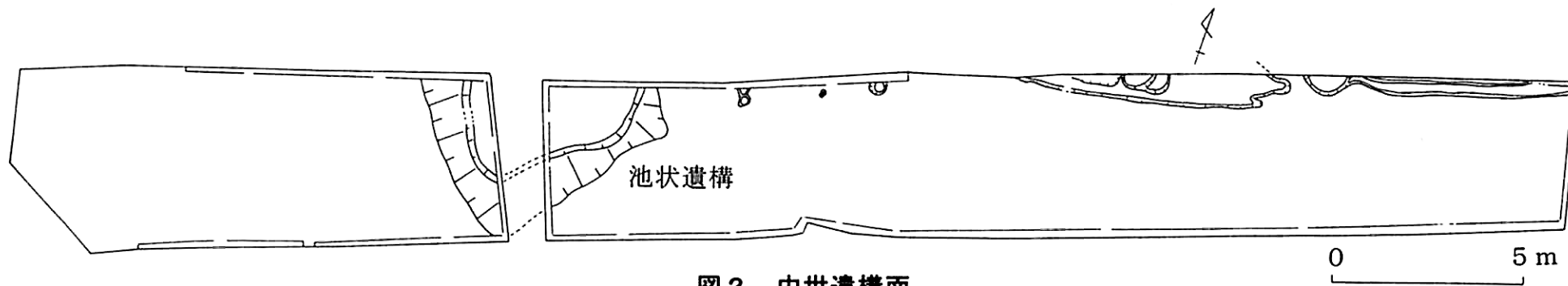


図 2 中世遺構面

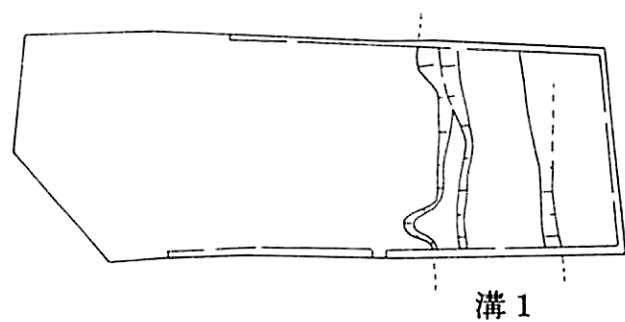


図 3 古代遺構面

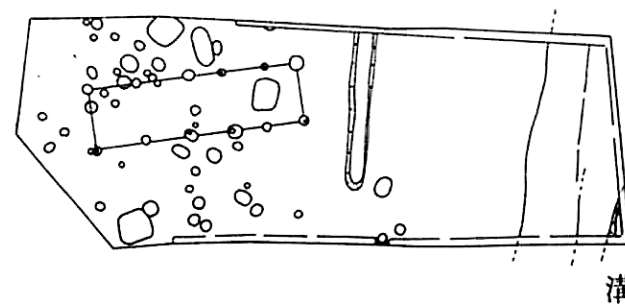


図 4 弥生時代後期～古墳時代前期遺構面

今回の調査で何がわかったの? 今回の調査では3時期の遺構面が確認されました。以下概略を説明します。

(中世)

室町時代を中心とした時期です。ため池と考えられる大きな穴と若干の土壙がみつかりました。生活域というよりも、水田などに近接する場所だったようです。

(古代)

調査区の西側で幅が3 mほどの溝がみつかりました。溝は北側の調査でもみつかっており、調査区西側を流れる小河川(現庄川)が洪水に見舞われた時などに流れる溝であったと推測されます。多量の土器が出土しました。

(古墳時代前期～弥生時代後期)

調査区の東半は水田域、西半は集落域です。集落域からは掘立柱建物と土壙、溝がみつかっています。溝には多量の土器が廃棄されており、何らかの「まつり」の跡を示していると思われる。北側に隣接する調査では、井戸がまとまってみつかっており、今回の調査でみつかった掘立柱建物との関連性も推測されます。

いずれにしても、岩倉遺跡の南端部の様子を明らかにすることができました。

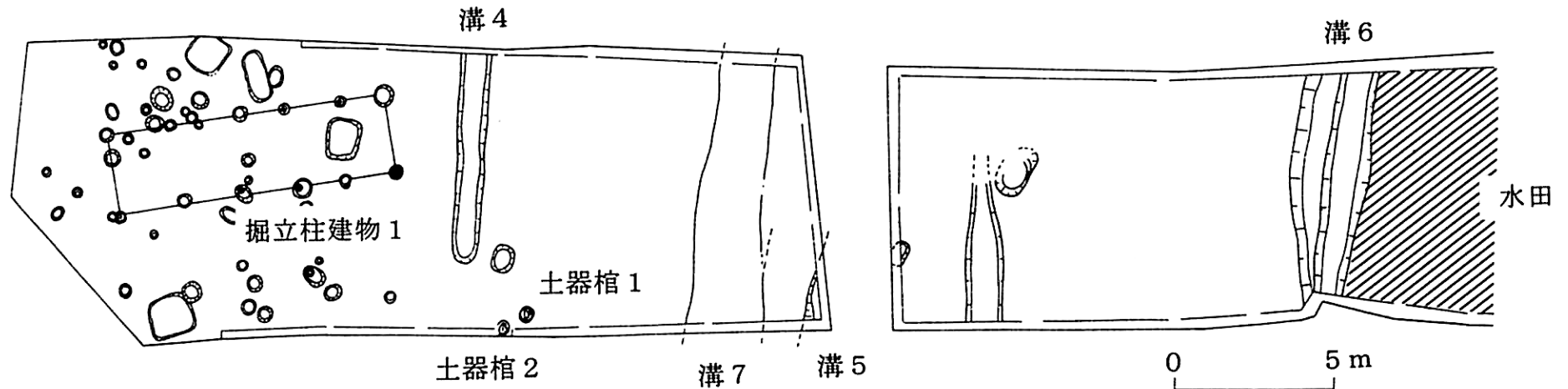
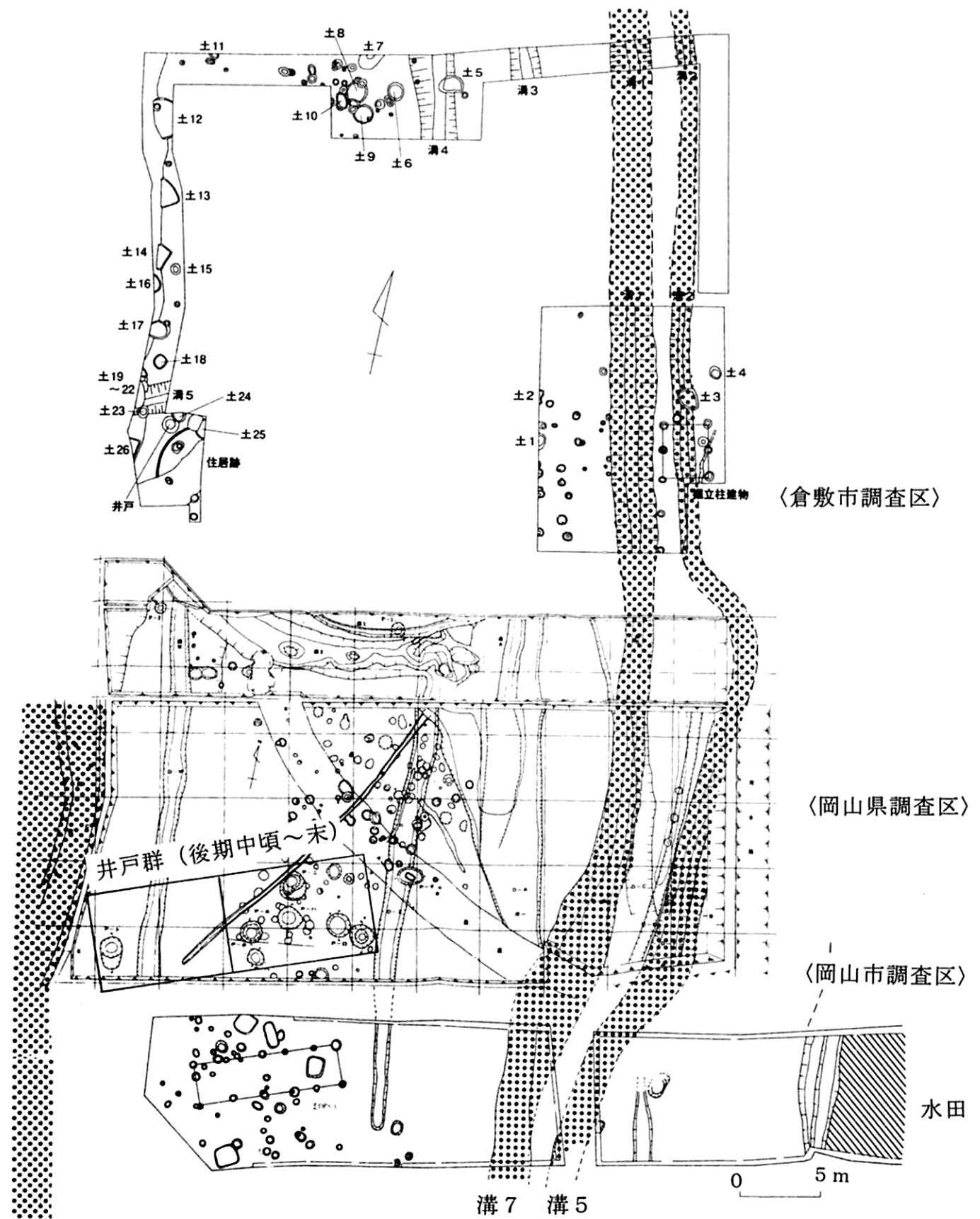


図5 弥生時代後期～古墳時代前期遺構面(拡大)



小河川
(現庄川)

図6 岩倉遺跡調査区合成図